



団体名・グループ名 あんず保育園ホタルレンジャー

〈審査委員の評価のポイント〉

保育園児が、ホタルの幼虫の飼育から放流、鑑賞会などを継続して実施しており、幼い時から自然と密接にふれあう貴重な体験は、環境教育として高く評価された。地元の農林課や地域住民との協力関係も充実しており、特に、保育園児ができる範囲で様々な取り組みをしていることは、全国のホタルレンジャー活動の励みとなると思われる。

主な活動は以下のとおり。

- ・ホタルの幼虫の飼育、園庭のほたる川への放流。
- ・保護者との観察会「ほたる祭り」の開催。
- ・地域の方を講師に招き「生き物いっぱい教室」の開催

活動の場所 園庭のホタル川 生き物いっぱい田んぼ	活動したこどもの人数 園児 54名
	活動したこどもの学年 1～6歳児

活動継続年数 6年	主な受賞歴 ホタルレンジャー奨励賞
---------------------	-----------------------------

活動グループ(学校・団体)の紹介、活動頻度

あんず保育園はあんず生産量日本一の「森の杏」の里にあり、山や田んぼに囲まれています。住宅も増えてきています。自然に囲まれてはいますが、自由に山に入ったり子どもたちが日常で遊べるような小川はありません。環境保育の一貫として、ホタルレンジャー活動を継続しています。園庭を流れる小さな小川を「ほたる川」と名付け、そこに飼育したほたるを放流して、ほたる祭りを開き鑑賞をしています。ほたるの飼育は年間通じて行い、水替えやカワニナとりなどを子どもたちのできる範囲で行っています。地域の方が先生となり「生き物いっぱい教室」をひらいていただき水辺の生き物と触れ合ったり、川の水を守るため、山に植樹するどんぐりの苗を育てています。

活動の概要(活動の経緯も含めてご記入ください)

園庭を流れる小さな川を「ほたる川」と名付け、その川に蛍の幼虫を放流しほたるが飛ぶのを楽しみに川の観察や清掃をします。卵を採取し園児が世話をしながら水槽で幼虫を育てています。水替えやカワニナ採りなど子どものできる範囲でホタルレンジャーの活動をします。幼虫の観察をしながら、幼児のときから手に載せて小さな命を感じています。蛍が飛ぶようになると、ほたる祭りを開きみんなで鑑賞をしました。今年度は地域の方のご理解をいただき、街灯を消したり、ほたる川の隣の畑の方にもご協力いただき、遮光ネットを張らせてもらったのでほたるの光がよく見れました。地域の方に先生になっていただく「生き物いっぱい教室」は3年目になり子どもたちは楽しみにしています。毎回、初めて出会う生き物がいて調べたり飼育するのを楽しみにし、「生き物いっぱい水族館」と名付けてみんなで見ています。ほたる川の水を守っていこうと、山に植樹するどんぐりの苗を育てたり、どんぐりを植えたりしています。農林課の方に植え方を教えていただいたので今年は子どもたちだけで植えました。

現在は、3月に放流する幼虫を育てています。

◆この応募用紙は、活動をした子どもたちの保護者や先生等、大人の方が記入してください。

団体名・グループ名

あんず保育園ホタルレンジャー

活動の場所(様子や環境など)

園庭を流れる小さな小川「ほたる川」へ幼虫の放流をし、ほたる祭りを開く。

地域の方のやっている「生き物いっぱい田んぼ」の用水路で「生き物いっぱい教室」を開いてもらい参加する。

保育園の周りの田んぼの用水でカワニナをとる。

タイトル

私たちの周りにいる小さな生き物を大切にしよう

活動を始めたきっかけ(興味を持ったことなど)

昨年見たほたるがきれいだったので、今年は僕たちが育てたいと思った。

夜みんなで集まってほたる祭りをしたのが楽しかったので、今年もやりたいと思った。

保育園の「ほたる川」がずっときれいでいてほしい。

生き物いっぱい教室で、いろいろな生き物と会うのが楽しみだ。

活動の目標(やってみたいと思ったことなど)

ほたるがいっぱい飛ぶようにしたい。

生き物いっぱい教室でいろいろな生き物に会ってみたい。

ほたるがきれいに光ってほしい。

保育士の願い

小さい子どもの時から身近な小さな命に触れることで、身近な自然に関心を持ち、大切にできるようになってほしいと願っている。

◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト(自由記入ノート)

4月6日 昨年の年長さんが育てた幼虫を「ほたる川」に放流する。手に載せてもらった幼虫は、はじめ丸まっていたがだんだん動き出した。

川に入るとさっそくもぐっていったのでほたるになって飛ぶの楽しみに待つ事にした。

「ほたるさん待ってるね」



4月9日 カワニナをとってきて「ほたる川」に入れる。石の下に幼虫がいた。

5月8日 「ほたる川」の観察をしていたらヨモギがいっぱい生えていたので、みんなで積んでヨモギ団子を給食の先生に作ってもらう。「川の水がきれいだから、いいヨモギだね」と給食の先生が言っていた。ほたるだけでなく、僕たちも「ほたる川」の恵みをもたらすことができた。

幼虫がさなぎになる頃なので、あまり暴れないようにそっと摘みました。

6月12日 「ほたるが5匹飛んだよ」朝保育園に行くと、そのニュースを聞いてうれしかった。早くほたる祭りをやりたいと思った。さっそくほたるの提灯を作った。



6月17日 「20匹飛んだよ」

ほたるがたくさん飛び始めたので、18日にほたる祭りをやることになった。

6月18日 「ほたる祭り」を開く

おうちの人と一緒に参加する。1年生になったお友達も見に来たのでみんなで120人になる。街灯を消したり、遮光ネットを張ったので、ほたるがよく見れた。



ほたるはほんとに小さいなと思った。

お兄ちゃんやお姉ちゃんも喜んで見ていた。

「今年も見れてよかった。」とお母さんが喜んで

6月19日 ほたるの観察をする。



瓶に入れて、ほたるを観察する。息を吹きかけると光るのでじっと見ていた。近くで見ることができて良かった。

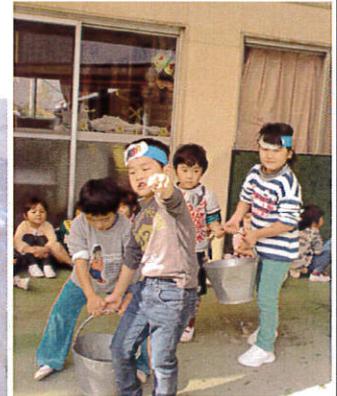
◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

6月20日 ほたるが卵を産みました。
霧吹きで湿らせながら孵化するのを待ちました。
7月12日 孵化がはじまりました。
とっても小さいので、虫眼鏡で見ました。
小さい子やおうちの人にも見てもらいました。
小さいのでびっくりしていました。
水槽に入れて幼虫を育てることになりました。



「ちいさいけどうごいてるよ」大きいのはカワニナでごみみたいなのがほたる
「これがほたるの幼虫なの！」とびっくりするお母さん
みんながよく見てくれてうれしかった。

11月7日 水槽の水替えをして幼虫を観察しました。
幼虫が大きくなっていました。カワニナをとってきて水槽に入れました。



水替えバケツリレー

11月14日 「どんぐり大作戦」でどんぐりを植える。
山から拾ってきたどんぐりを、ポットに植える。去年のどんぐりは、20センチ
ぐらいにおおきくなっている。もう少し育てて春になったら山に植えます。
どんぐりを山に植えると水がきれいになるかと教えてもらったので、どん
ぐりを育てて、ほたる川の水を守れ
たらいいなと思います。



活動で工夫したこと、困ったこと

- ほたるを育てられるか心配だった。
- 水槽の水替えのときこぼしてしまった。
- 水槽の水がすぐ汚くなってしまって困った。

活動で気づいたこと、感じたことやおもしろかったこと

- ほたるの幼虫はとげのようなのが生えていて、びっくりした。でも光るととてもきれいでよかった。
- 水槽の水替えは大変だけど、きれいになるとほたるも喜んでいるかな。
- 幼虫は手に載せると、動き出してくすぐったい。
- ほたるは黒いネットが好きで、そこにとまることが分かった。暗い方がほたるがよく見える。
- 卵からほたるが生まれたときはこんなに小さいんだと思った。
- 生まれたときはとても小さくてびっくりした。
- 生まれてくれてうれしかった。
- 一年生になったらまたほたるを見にきたい。

活動からわかった課題、自分たち「こどもホタルレンジャー」にできること

- 水槽の水替えは大変だけど、やらないと水が濁ってほたるが死んでしまう。
- 夏は水が熱くなってしまうので、水替えを一生懸命やらないといけない。
- ほたる川の水はいつもきれいなので、ずっとこのままきれいで流れてほしいと思う。
ごみがあったら拾ったりしたい。
- ドングリが大きな木になって水をきれいにしてほしい。
- さくら組さんにホタルレンジャーになって頑張ってもらいたい。

大人の人と一緒に、改善していきたいこと

- 保育園にほたるがいっぱい飛ぶといいなと思う。
- ほたる祭りでおうちの人と一緒に見れたのがよかった。また見たいと思う。
- 水替えが大変だけど僕たちも頑張る。
- 保育園の周りは街灯や自動販売機で夜も明るく、ほたるを見る時は気になります。また明るいとはよく飛びません。今年度は、生活安全課に相談をして、ほたる祭りの日だけ街灯を消してもらいました。また近隣の方のご協力をいただき、自動販売機に暗幕をかけました。ほたる川の周りに遮光ネットを張り、よりほたるが見えるようにしたところ昨年よりたくさんほたるを子どもたちに見せることができました。
ほたるを守っていくには、明るさも大切なポイントだと感じました。

◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

「地域の水環境調べ・テーマ活動」(テーマを選択して記入※ぜひ、いずれかのテーマ活動に取り組んでみて下さい。)
身近な水中の生き物を調べてみよう。

テーマ活動の内容・結果

生き物いっぱい教室でいろいろな生き物と出会えたよ。

7月12日と9月2日 2回「生き物いっぱい教室」に参加し、地域の方の田んぼや水路で生き物たちを捕まえたり調べたりしました。いろいろな生き物がたくさんいました。7月の田んぼには小さなとんぼがとんでいました。とてもきれいなとんぼで、調べたら珍しいトンボだということがわかりました。

「モートン糸トンボ」という名前でした。



「モートン糸トンボ」

9月の川には、ミナミヌマエビがいました。とてもちいさな

エビでした。ヤゴ、サワガニ、マシジミ、ドジョウ、マルタニシ

ザリガニのあかちゃんがありました。

「生き物いっぱい水族館」を作ってお家の人にも見てもらいました。

生き物たちは調べたり観察した後また川に返しました。



ミナミヌマエビ



テーマ活動からわかったこと・考えたこと

- 生き物いっぱい田んぼには小さな生き物がたくさんいた。○みんなに会えてよかった。
- 生き物たちはいろいろなことを教えてくれる、と生き物博士の西村さんが言いました。
- 川で遊んだことがなかったので、生き物探しができて良かった。ミナミヌマエビは透き通っていてびっくりした。
- 石の陰や、草の陰に生き物たちは住んでいる。網ですくって泥の中を探すと見つけることができた。
- 「生き物いっぱい水族館」を作って小さな友達にも見せることができて良かった。
- 生き物博士の西村さんはいろいろなことを知っていてすごい。ぼくもなりたい。
- 小さな生き物たちも頑張って生きてほしい。



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。